

# 2022年3月期 第2四半期 決算説明会

2021年11月19日  
シダックス株式会社  
(JASDAQスタンダード：4837)

**SHIDAX**  
人と社会を健康に美しく



# シダックスグループ連結決算概要

---

## 上期ハイライト

断続的な緊急事態宣言の影響下も、全体的に契約件数の着実な増加に加え、コストコントロールが奏功し

**大きく増収増益を達成**

通期業績予想に対して上期は、売上高・利益面ともに

**計画通りに着地**

不採算部門の整理など事業の選択と集中を加速させ、再成長戦略「Re-Growth」の実現に向けて

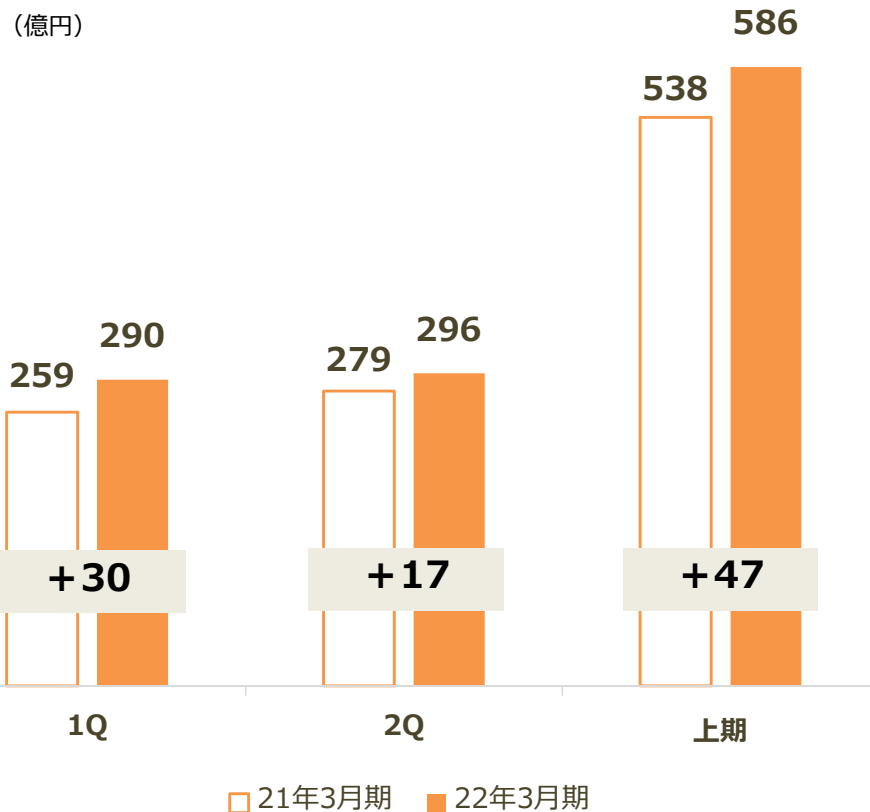
**経営改革は順調に進行中**

## 連結決算概要

(百万円)	21/3 上期	22/3 上期	前期比	増減	要因
<b>売上高</b>	53,886	<b>58,656</b>	108.9%	+4,770	社会サービス +2,582、フードサービス +1,631
売上総利益	6,245	<b>7,577</b>	121.3%	+1,331	原価率 前期88.4% 当期87.1%
販管費	6,136	<b>6,095</b>	99.3%	▲41	本部費用圧縮
<b>営業利益</b>	109	<b>1,482</b>	1350.9%	+1,373	不採算部門の整理等 +383 全社費用減少 +384
営業外収益	284	<b>197</b>	69.5%	▲86	
営業外費用	210	<b>152</b>	72.1%	▲58	
<b>経常利益</b>	183	<b>1,528</b>	834.2%	+1,345	
特別利益	452	<b>125</b>	27.8%	▲326	21/3 助成金 425計上あり
特別損失	584	<b>122</b>	20.9%	▲462	21/3 コロナ損失 404計上あり
税前利益	51	<b>1,531</b>	2999.5%	+1,480	
法人税等	▲66	<b>232</b>	-	+299	繰越欠損金あり
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	117	<b>1,299</b>	1005.9%	+1,181	

## 売上高 四半期推移

### 【売上高】47億円の増収（前期比 108.9%）



1Q/ +30億円 (同111.8%)

2Q/ +17億円 (同106.1%)

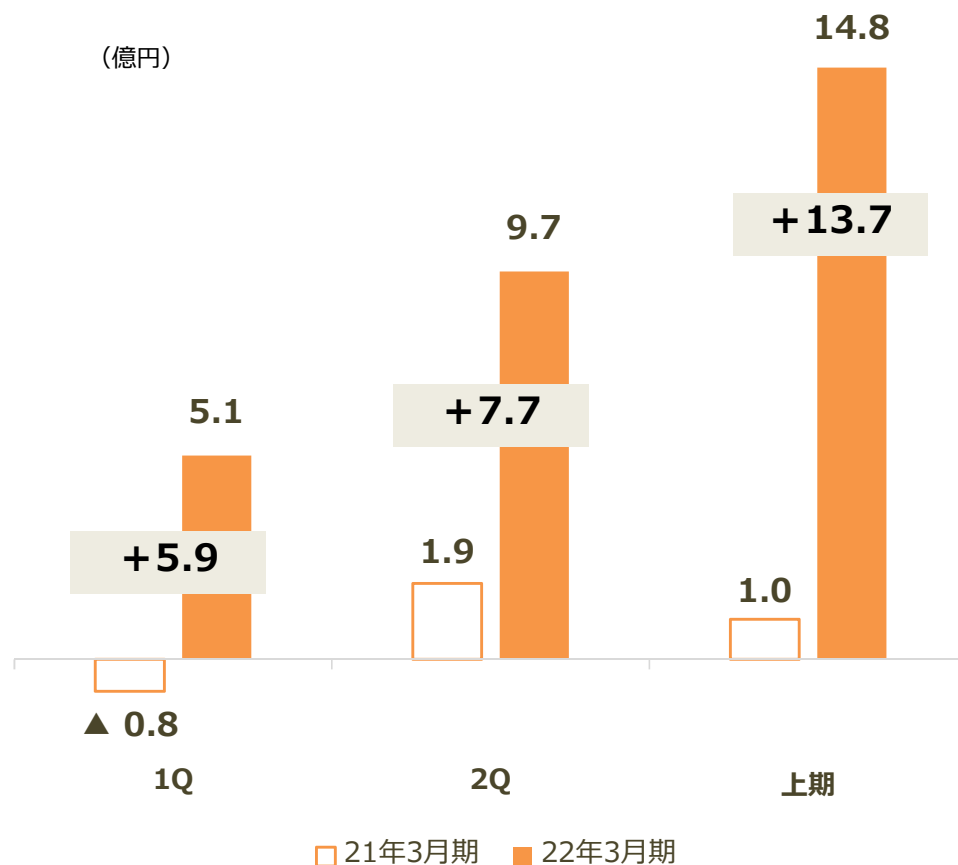
#### ・社会サービス事業の躍進（25億円の増収）

市場ニーズが高まる中、学童保育部門の積極的な営業展開により受託クラスが大幅増加し、高成長が継続

#### ・フードサービス事業の回復（16億円の増収）

コロナ禍の影響は限定的となり、順調に推移

## 営業利益 四半期推移



### 【営業利益】 13億円の増益 (前期比 1,350%)

1Q/ +5.9億円 (黒字転換)  
2Q/ +7.7億円 (原価率1.8pt 改善)

- 原価率の改善 88.4%→ 87.1%**  
 コストコントロールの高度化  
 前期からのコロナ禍における運営ノウハウの蓄積
- 販管費率の改善 11.4%→ 10.4%**  
 本部コスト削減による間接費の圧縮



## 今後の見通し、方針について

---

## 今後の見通し

(百万円)	21/3	22/3 通期予想	前期比	増減
売上高	110,148	<b>116,957</b>	106.2%	6,809
営業利益	690	<b>2,327</b>	337.0%	1,637
経常利益	893	<b>2,177</b>	243.7%	1,284
親会社株主に帰属する 四半期純利益	630	<b>1,803</b>	286.1%	1,173

### 業績予想：変更なし

- ① 上期業績は計画通りに着地
- ② 今後の経営環境及び新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明も、一定の影響を業績予想に織り込み済
- ③ 足元の状況についても、各事業において若干の好不調があるものの総じて順調であり、下期も計画通り推移する見通し

※2021年8月6日公表の連結業績予想

※2021年11月10日公表の固定資産（信託受益権）の譲渡及び特別利益の計上に関しては、今後も固定資産の売却など特別損益の計上を見込んでおり、現時点において未確定の内容も多く現在精査中のため、確定次第速やかにお知らせいたします



## 今後の方針、下期アクション

### 再成長戦略「Re-Growth」の実現に向け、引き続き経営改革に注力

#### ◆ 事業ポートフォリオの再構築と拡充

～ 基幹事業の考え方 ～ 社会全体の役割まで担える「**社会課題解決型企业**」として、  
経済価値と社会価値の相乗効果の実現が可能な事業であることが前提

#### ・ 事業の選択と集中を加速

不採算部門の撤退（BtoC）、BtoB/BtoPに特化した基幹事業の更なる成長に向けて経営リソースを投入

#### ・ 新規営業開発強化による受注促進

事業間のクロスセル促進、Webでの顧客獲得等による営業/受注を強化し、事業全体を底上げ

#### ・ コストコントロール

コロナ禍/ポストコロナにおけるオペレーションの最適化による、コストコントロールの高度化  
コンテンツの充実化を図り、高付加価値サービスの提供による利益率の改善

## 今後の方針、下期アクション

### ◆ ESG/SDGs活動の推進（活動事例：APPENDIX参照）

- ・ コロナ禍で社会課題となった「ワクチン接種」会場の運営
- ・ 学童保育施設の子どもを対象とした「資源保全」に取り組むオンライン工場見学など、社会課題解決の一助となる活動を推進

当社の事業領域は、少子高齢化による人手不足のような社会課題を多く抱える現代に限らず、コロナ禍においても、市場ニーズが進化し拡大を続けるなど、**これからの社会に有用な事業**と自負

→ 特に、近年需要が増大している「社会サービス事業」が重要な役割を果たすとともに持続的な成長ドライバーとなっていくことに期待



**ポストコロナの事業環境の変化を見据えた「新中期経営計画」を策定中**（22年5月 公表予定）



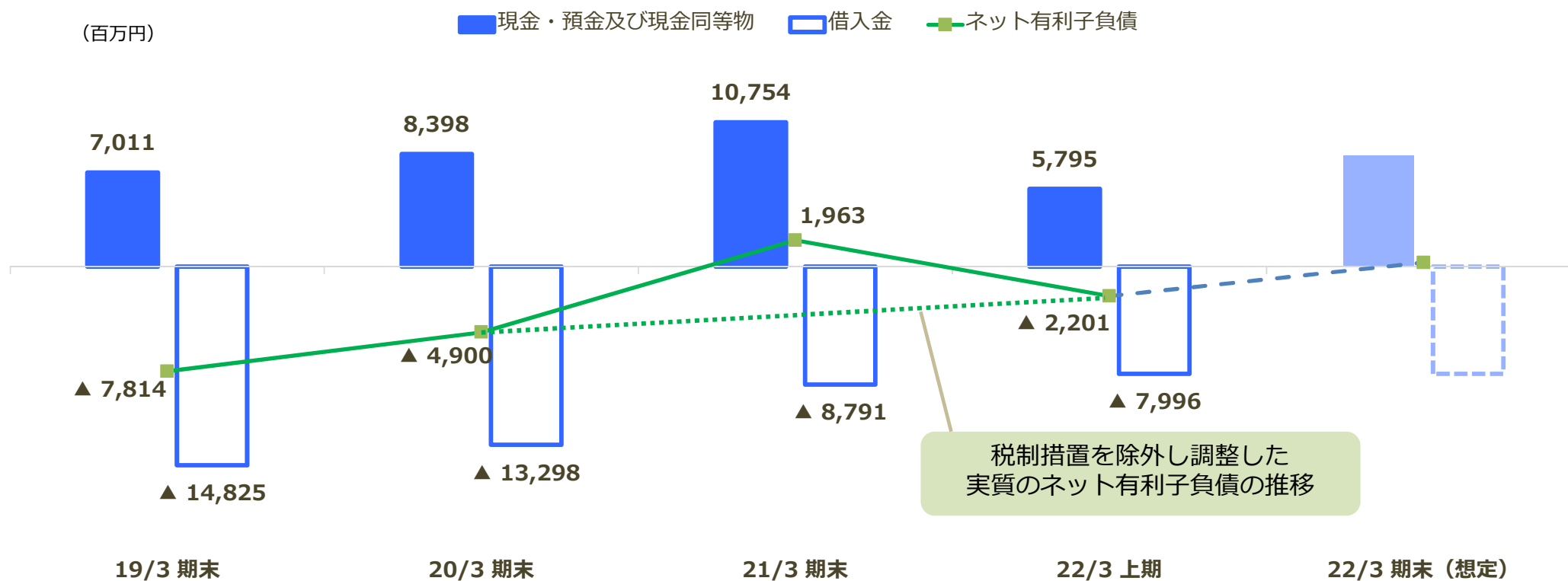
## 財務状況

---

## B/Sサマリ 関連指標

(百万円)	21/3 期末	22/3 上期	増減
資産	39,913	34,809	▲5,103
負債	32,392	26,291	▲6,101
純資産	7,520	8,518	+998
有利子負債残高	8,791	7,996	▲795
ネット有利子負債	▲1,963	2,201	+4,164
D/Eレシオ (倍)	1.17	0.94	▲0.23
ネットD/Eレシオ (倍)	▲0.26	0.26	+0.52
現金及び現金同等物残高	10,754	5,795	▲4,959
自己資本比率 (%)	18.8	24.5	+5.7pt

# キャッシュポジション



ネット有利子負債のマイナスは、前期の税制措置に起因するものであり  
計画通り着実に減少



## 事業セグメントについて

---

# 事業領域の沿革

## 過去の事業領域



## 現在の事業領域



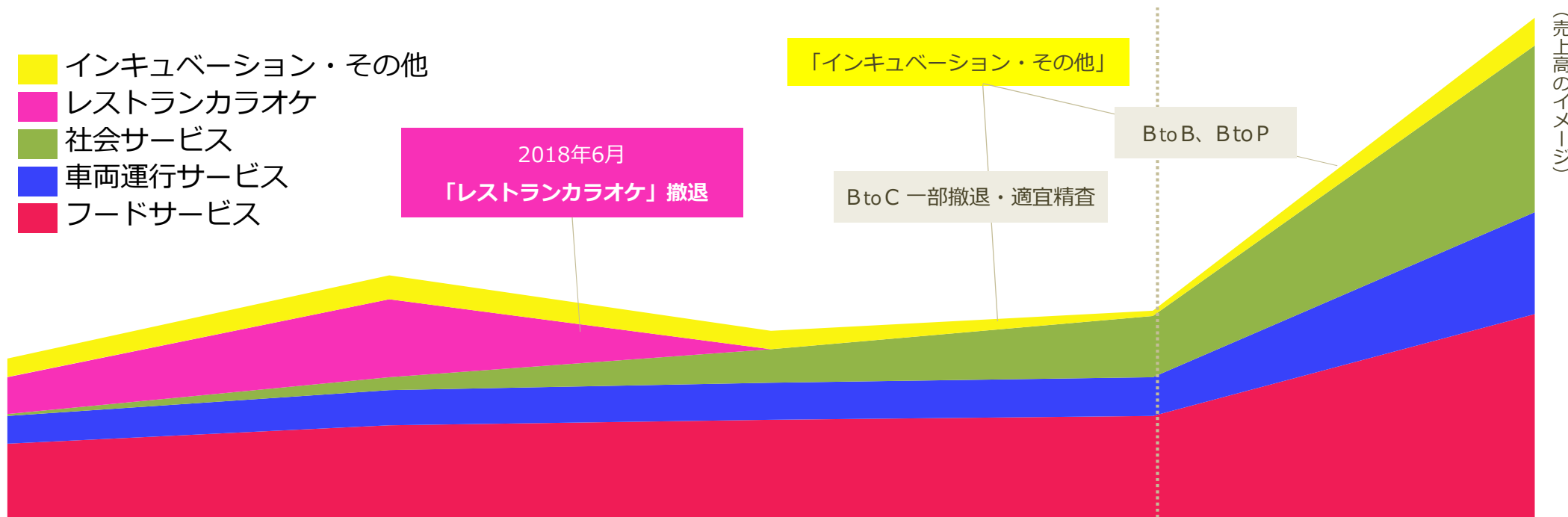
- インキュベーション・その他
- レストランカラオケ
- 社会サービス
- 車両運行サービス
- フードサービス

2018年6月  
「レストランカラオケ」撤退

「インキュベーション・その他」

BtoC 一部撤退・適宜精査

BtoB、BtoP



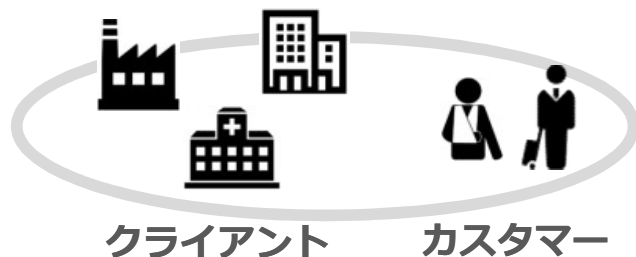
(売上高のイメージ)

## ビジネスモデル

B to B、B to Pに特化した「アウトソーシングサービス」を基軸とし  
クライアントの“場”において、クライアントの顧客の皆様へサービスを提供するモデル

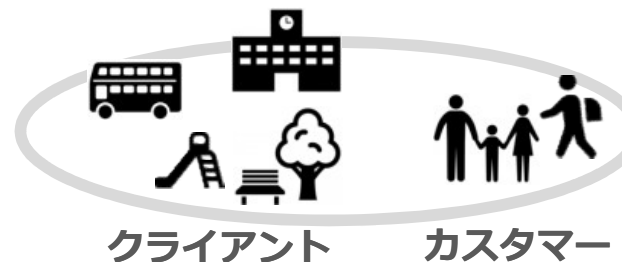
### B to **B**usiness

- 企業
- 病院・福祉施設
- 幼稚園・保育園
- 従業員
- 患者・入居者
- 園児



### B to **P**ublic

- 国・自治体
- 国・自治体 (“場”はさまざま)
- 住民
- 公立学生
- 観光客

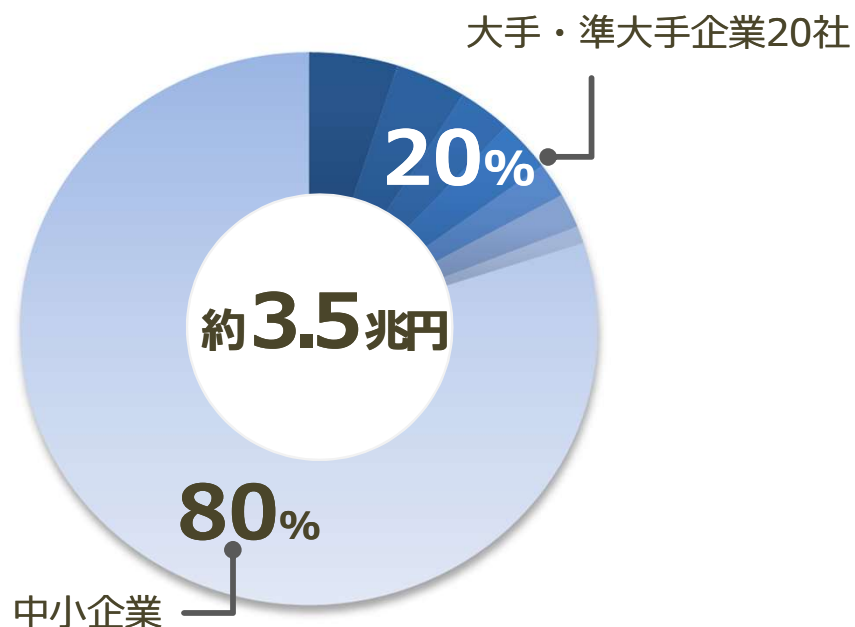




## 市場環境とポジショニング

### フードサービス事業（集団給食）

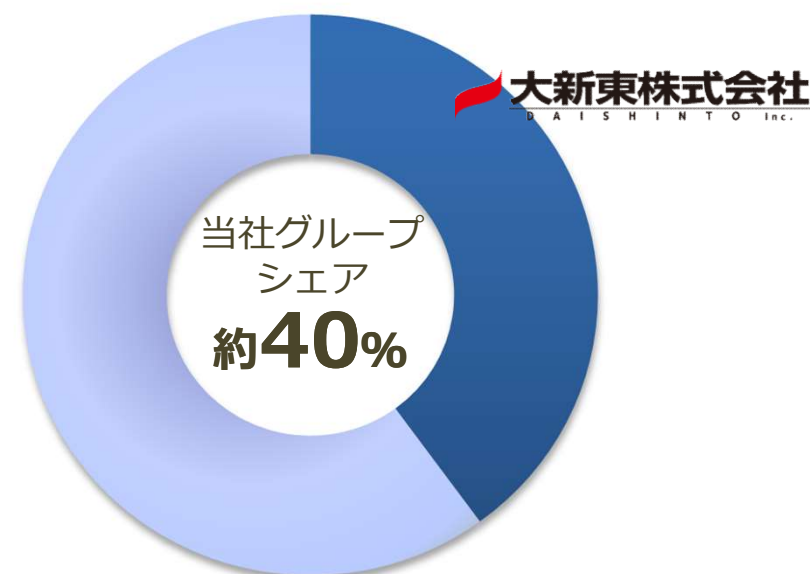
参入企業の99%が中小企業で、最大手群でもシェアは5%程度と分散化された市場であり、今後は緩やかに寡占化すると見られるため、規模拡大余地が大きい



出所：日本フードサービス協会「外食産業市場規模推計」、当社調べ

### 車両運行サービス事業（自家用車両運行管理）

自治体や大企業の役員車、公用車のニーズに支えられた安定市場に加え、自治体におけるコミュニティバスの運行などは、今後も路線拡大や運行台数増加が見込まれ市場成長の余地が大きい



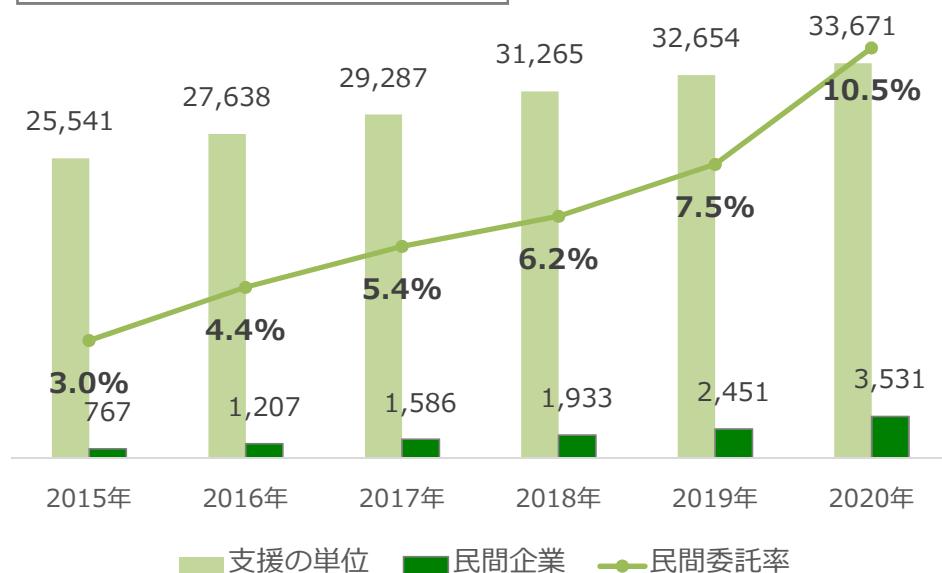
※グラフのシェアは「役員車両」市場  
出所：当社調べ

## 市場環境とポジショニング

### 社会サービス事業（学童保育）

「省令基準」に則った学童保育の量的な拡大と質的な拡充が急務であり、民間委託率が大幅な増加基調の拡大市場

学童保育「支援の単位」の推移



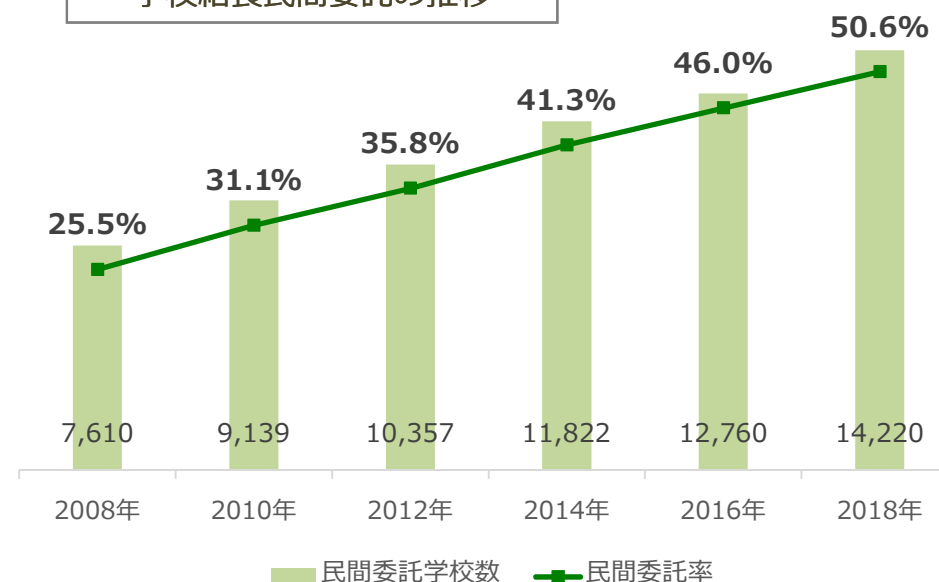
出所：全国学童保育連絡協議会「学童保育実態調査」

※厚生労働省令「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（2014年4月策定）では、「放課後児童支援員を、支援の単位ごとに2人以上配置」「一の支援の単位を構成する児童の数は、おおむね40人以下」と定められ、2015年調査から「支援の単位」を学童保育の基礎的な単位であると考え「支援の単位」数を集計

### 社会サービス事業（学校給食）

おおよそ4,500億円の市場規模であり、今後も民間委託化が進むと見込まれる成長市場

学校給食民間委託の推移



出所：文部科学省「学校給食実施状況調査」

## 事業セグメント

アウトソーシングサービスの「3つの基幹事業」で事業セグメントを構成

**フードサービス事業** 約**1,900**カ所

オフィス 490、工場 240、キャンパス 110、病院 240  
福祉施設 370、保育園・幼稚園 160 他

**車両運行サービス事業** 約**3,600**台

黒塗り車 1,700、公共・コミュニティバス 500  
スクールバス 400 他

**社会サービス事業** 約**2,700** (件)

学童保育 1,100クラス、公立小中学校給食 630カ所  
施設・寮業務 280件、観光業務 90件、図書館業務 90件 他

オンリーワンの強み トータル・アウトソーシングを全国区で提供可能



## 事業セグメント決算概要

---

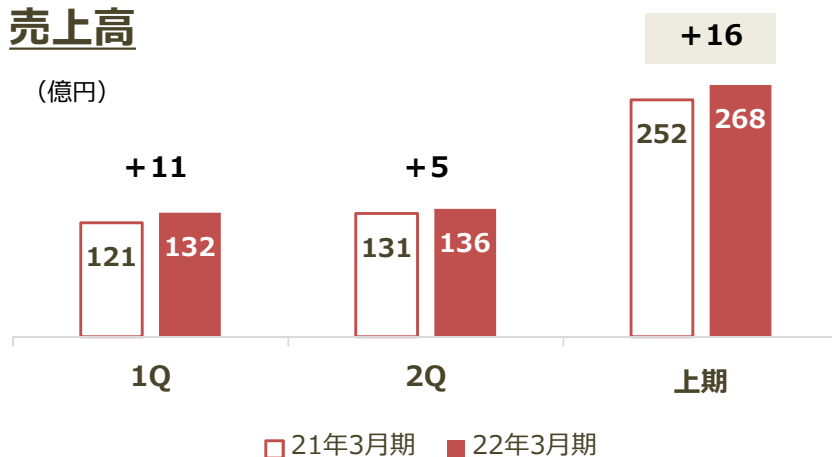
## 事業セグメント 決算サマリ

(百万円)	セグメント	21/3 上期	22/3 上期	前期比	増減	
	フードサービス	売上高	25,239	<b>26,871</b>	106.5%	+1,631
		営業利益	797	<b>1,373</b>	172.2%	+576
	車両運行サービス	売上高	10,450	<b>10,814</b>	103.5%	+364
		営業利益	805	<b>946</b>	117.5%	+140
	社会サービス	売上高	16,166	<b>18,748</b>	116.0%	+2,582
		営業利益	988	<b>886</b>	89.7%	▲102
その他	売上高	2,868	<b>2,830</b>	98.7%	▲37	
	営業利益	▲520	<b>▲137</b>	—	+383	
消去・全社費用	売上高	▲838	<b>▲608</b>	—	+229	
	営業利益	▲1,961	<b>▲1,586</b>	—	+375	
連結計	売上高	53,886	<b>58,656</b>	108.9%	+4,770	
	営業利益	109	<b>1,482</b>	1350.9%	+1,373	

## セグメント別 フードサービス事業

### 売上高

(億円)



**【売上高】 16.3億円の増収** 1Q/+11億円 2Q/+5億円

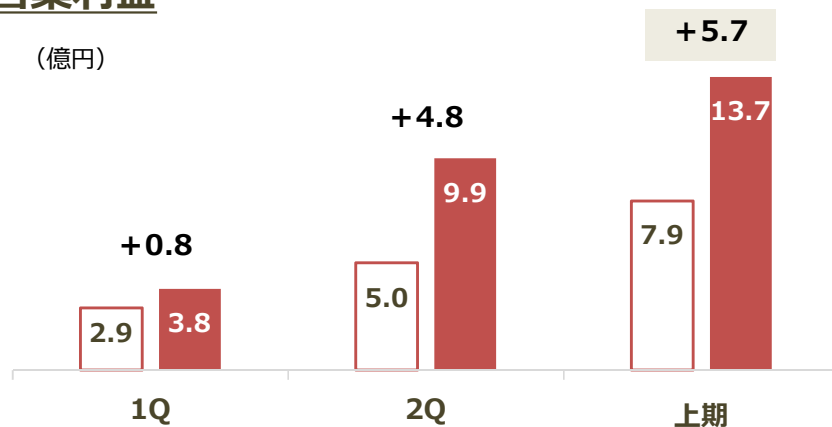
- (+) コロナ禍の影響が限定的となり、既存店売上が増加
- (+) アドホックなイベント等の受託による増収
- (-) 依然とし一部の施設において、リモートワークやオンライン授業等の普及により喫食者の減少が継続

**【営業利益】 5.7億円の増益** 1Q/+0.8億円 2Q/+4.8億円

- (+) コロナ禍における運営ノウハウの習得によるコストコントロールが奏功
- (+) 既存店における赤字店舗の撤退、低迷店舗の改善

### 営業利益

(億円)



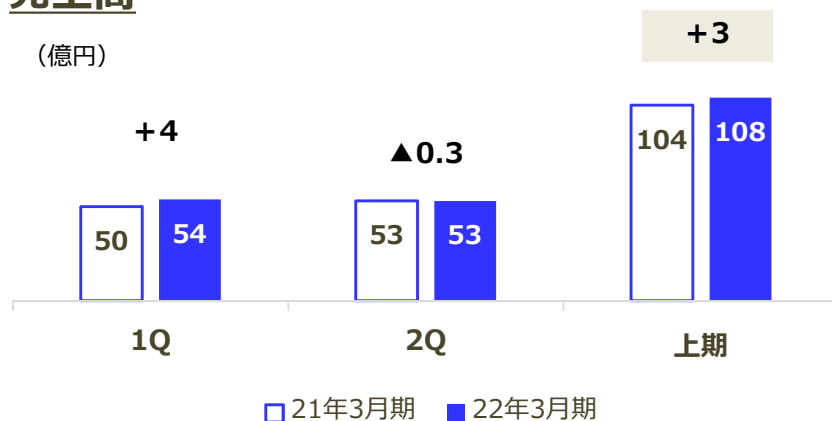
#### (コロナ影響)

一部の施設を除きコロナ影響から回復し、一部店舗でコロナ影響による売上減は継続するものの、運営ノウハウの高度化によりコロナ影響を最小限に留める

## セグメント別 車両運行サービス事業

### 売上高

(億円)



【売上高】 3.6億円の増収 1Q/+4億円 2Q/▲0.3億円

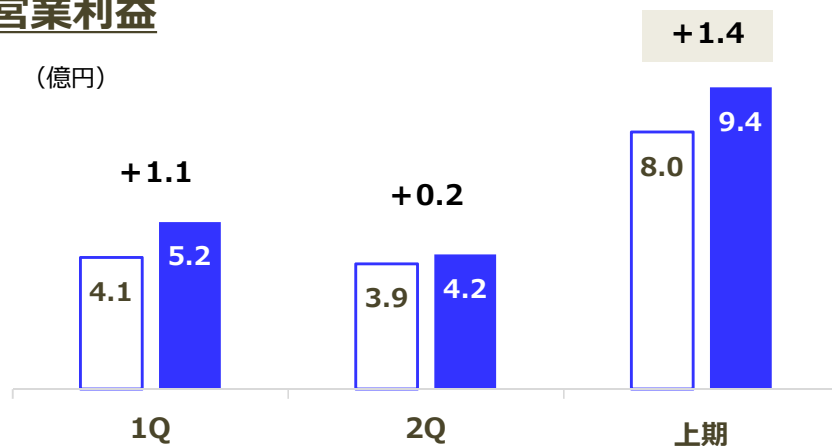
- (+) 旅客部門の新規増車と臨時便等による増収
- (-) 役員車両部門の減車影響に加え、時間外等のその他売上高が減少

【営業利益】 1.4億円の増益 1Q/+1.1億円 2Q/+0.2億円

- (+) 役員車両部門の減益を一般車両・旅客部門の増益でカバー
- (-) 燃料単価の高騰によるコスト増

### 営業利益

(億円)



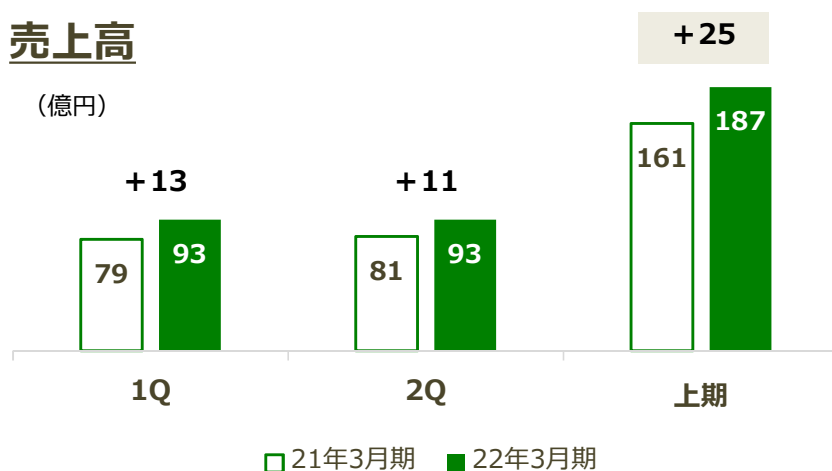
### (コロナ影響)

断続的な緊急事態宣言の発令及び延長により、役員車両部門の売上に影響あり  
バスなど旅客部門における観光需要の回復には未だ時間を要している

## セグメント別 社会サービス事業

### 売上高

(億円)



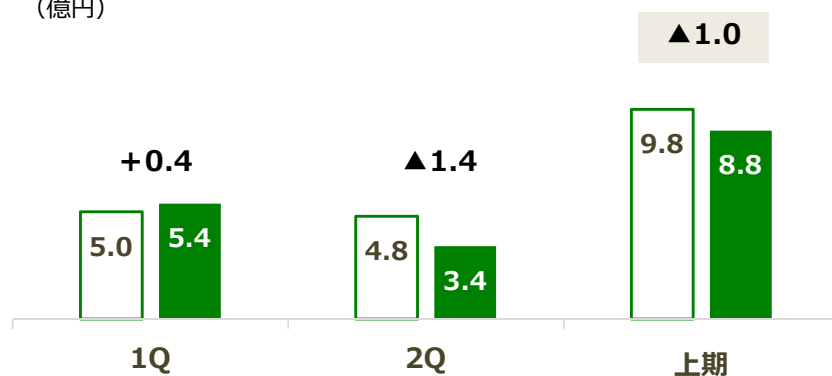
**【売上高】 25.8億円の増収** 1Q/+13億円 2Q/+11億円

- (+) 学童保育の新規クラス数233件の受託件数増加より大幅増収
- (+) 自治体案件が堅調に推移
- (+) ワクチン集団接種の会場運営など新たな業務を獲得
- (-) 緊急事態宣言の影響により観光・レジャー施設が弱含み

**【営業利益】 1.0億円の減益** 1Q/+0.4億円 2Q/▲1.4億円

### 営業利益

(億円)



- 減益着地も、特殊要因調整後は増益、通期計画に対してインライン
- (-) 前期特殊要因として、①国政の補正予算による各自治体と増額契約あり  
②コスト計上の調整時期が下期に
- (-) 観光施設が緊急事態宣言でマイナスも管理費制でカバー

### (コロナ影響)

観光・レジャー施設において回復が弱含みとなったが、徐々に回復基調の兆し



## 参考データ集

21年3月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
フードサービス事業 コトカタフードサービス	増加		16	5	2	1	2	2	28	2	0	0	0	12	5	47
	減少		3	2	2	6	1	2	16	7	6	7	10	7	36	89
	残	1,146	1,159	1,162	1,162	1,157	1,158	1,158	1,158	1,153	1,147	1,140	1,130	1,135	1,104	1,104
フードサービス事業 メディアフードサービス	増加		25	0	0	4	1	0	30	2	2	4	3	2	3	46
	減少		0	0	3	0	1	0	4	0	1	0	1	1	15	22
	残	696	721	721	718	722	722	722	722	724	725	729	731	732	720	720
車両運行サービス事業 管理台数	増加		176	13	10	16	14	20	249	19	10	13	4	8	7	310
	減少		128	15	6	17	11	5	182	34	12	23	18	4	14	287
	残	3,567	3,615	3,613	3,617	3,616	3,619	3,634	3,634	3,619	3,617	3,607	3,593	3,597	3,590	3,590
社会サービス事業 管理人員	増加		4,213	281	1,189	133	345	285	6,446	419	209	232	109	230	1,370	9,015
	減少		1,221	139	228	240	169	200	2,197	147	151	187	131	149	1,048	4,010
	残	10,726	13,718	13,860	14,821	14,714	14,890	14,975	14,975	15,247	15,305	15,350	15,328	15,409	15,731	15,731

22年3月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
フードサービス事業 コトカタフードサービス	増加		12	2	3	2	0	2	21							21
	減少		2	3	5	6	4	7	27							27
	残	1,104	1,114	1,113	1,111	1,107	1,103	1,098	1,098	1,098	1,098	1,098	1,098	1,098	1,098	1,098
フードサービス事業 メディアフードサービス	増加		33	2	0	7	0	1	43							43
	減少		0	0	2	1	1	2	6							6
	残	720	753	755	753	759	758	757	757	757	757	757	757	757	757	757
車両運行サービス事業 管理台数	増加		158	19	13	21	11	24	246							246
	減少		136	39	9	16	15	11	226							226
	残	3,590	3,612	3,592	3,596	3,601	3,597	3,610	3,610	3,610	3,610	3,610	3,610	3,610	3,610	3,610
社会サービス事業 管理人員	増加		895	665	740	399	494	458	3,651							3,651
	減少		248	209	225	203	274	385	1,544							1,544
	残	15,731	16,378	16,834	17,349	17,545	17,765	17,838	17,838	17,838	17,838	17,838	17,838	17,838	17,838	17,838

A red decorative graphic consisting of a curved, flame-like shape on the left side of the page, extending horizontally across the page as a thin line.

## APPENDIX 「ESG・SDGs 推進活動」

## ESG・SDGs推進活動

### 17の開発目標

企業が追求すべき社会性は、SDGsとして17の開発目標が示されているが、当社の事業領域は社会性が高い上に、多くの社員・顧客・パートナー企業を抱える企業形態のため、他社と比べても能動的に取り組める目標が多い



## 取り組み実績のご紹介①

### コロナウイルスワクチン接種に対する取り組み

全国の公共施設の運営や自治体業務等の受託運営を行う事業会社、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社では、2021年5月3日～8月31日の期間、東京都世田谷区が実施する新型コロナウイルスワクチン集団接種会場計19カ所の運営業務を行いました

TOS事業本部では、非医療系大学としては初となる大正大学におけるワクチンの職域（学内）接種の運営を一括で受託いたしました

7月から10月にかけては、取引先とも協業し、自社従業員や家族を含むのべ7,607名に対する職域接種を実施するなど、新型コロナウイルスワクチンの安全かつ迅速な接種を推進しました



コロナワクチン集団接種会場の1つ  
「世田谷区立保健医療福祉総合プラザ」



職域接種の様子

## 取り組み実績のご紹介②

### 「シダックスオフィスパートナー」が東京都より表彰

シダックスグループの特例子会社「シダックスオフィスパートナー（以下SOP）」が2021年9月27日、障がい者雇用の特色ある優れた取り組みを行う企業を表彰する「令和3年度 障害者雇用エクセレントカンパニー賞（東京都知事賞）」に選定されました

SOPは2011年に設立されて以来、障がい者雇用を積極的に推進してまいりましたが、今回の受賞は、同社の特長である精神障がい者の方々の積極的な雇用姿勢が特に高く評価されたものです

シダックスグループには全国に約36,000名の従業員がおりますが、従来より財産は「人」と考え、性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、異なる個性や能力を持った「人」が活躍できるダイバーシティ経営を推進してまいりました

この受賞を励みに、今後も「人」を重要視した経営を続けていくと共に、すべての従業員が働き甲斐があり、かつ安心して働ける環境整備に継続して努めてまいります



事務代行作業を行うSOP社員の様子



運営受託施設にて業務を行う様子

## 取り組み実績のご紹介③

### 「サステナブルフード」の提供開始！

シダックスグループでは、環境や動物福祉に配慮した持続可能な体制で生産・加工された食材を「サステナブルフード」と定義しています

2021年9月からは、受託する全国約1,900の社員食堂、学生食堂などで「サステナブルフード」を使ったメニューを提供し、お客様に食事を通してSDGsを身近に感じていただくことができました

9月には食品安全・環境保全等の国際基準に準拠した方式で、養豚・加工された豚肉を使ったほか、10月には国際基準の認証を取得した養鶏場の鶏モモ肉などを用いたメニューを提供

また、「大豆ミート」や「ブルーシーフード」と呼ばれる持続可能な漁法が確立されているシーフード)などのメニュー提供も試験的に開始しています



塩だれキャベツ豚丼（イメージ）



焼きチキン南蛮（イメージ）

## 取り組み実績のご紹介④

### 宗像市でのオンライン工場見学

2021年8月、コカ・コーラ ボトラーズジャパン協力の下、福岡県宗像市で受託運営する15クラス/約1,000名の公立学童保育施設の子どもを対象に、オンライン工場見学を実施いたしました

約1時間のプログラムを通して、同社の取り組んでいるリサイクル活動、水資源の保全活動、森林保全活動を題材に、SDGsや環境問題に興味を持って頂くきっかけ作りと学びの場を提供いたしました

「コカ・コーラの作り方がよくわかり楽しかった」「ペットボトルの作り方もいろんな工夫があることがわかった」などの感想が多く、楽しみながらSDGsに関心を持つ機会となり、自治体からもご好評いただきました



オンライン工場見学の様子

## 取り組み実績のご紹介⑤

### SDGs推進のため、長崎県対馬市と連携協定を締結

～対馬の持続的な発展をサポート～

当社は2021年6月16日、長崎県対馬市（比田勝 尚喜くひたかつ なおき>市長）とSDGs推進のための持続可能な地域課題の総合的な解決を図るべく、「持続可能なしまづくりに関する連携協定」を締結いたしました

当社としては初となる「地域活性化企業人制度」の活用により、社員1名が対馬市に出向し、主に行政サービスのDX推進を目的にIT関連全般のコンサルティングを行うと共に、今後は自家用自動車での移動が多い島内の公共交通機関のサポートやノウハウの提供、共同プロジェクトの実施等を視野に入れております

人財交流や共同プロジェクトの実施などを通じて、さらなるSDGsの推進に努めて参ります



オンラインで繋いで開催した共同記者会見の様子



## 取り組み実績のご紹介⑥

### 持続可能な未来をつくる食材「スピルリナ」 「食べるSDGs」として社員食堂でメニューを提供

給食事業などを展開するシダックスコントラクトフードサービスでは、株式会社タベルモ（本社：東京都千代田区）と共同で、「スーパーフードの王様」と呼ばれ、未来のたんぱく資源として注目されている「スピルリナ」を使用したメニューの提供を行いました

「スピルリナ」は地球最古の植物とされる藻類の一種で栄養価に優れており、近い将来懸念される世界的なたんぱく質不足への対応の側面からも「持続可能性の高い食糧」として期待されています

本企画は社員食堂でスピルリナのフードメニューを提供する日本初の取り組みとして、2021年5月に第1弾を実施し、9月に第2弾を開催するなど今年度中にさらに2回、開催する予定です



スピルリナを使用したメニュー（イメージ）  
※スピルリナ自体は緑色だが、無味無臭のため料理の味を損なわずに栄養価を付加できる

## 免責事項

- 本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、シダックスグループの財務情報および経営情報の提供を目的としたもので、当社が発行する株式の購入、売却および投資アドバイスを目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の責任、判断のもとになされますようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている事項には、当社に関する将来予測や業績予測が記述されていますが、将来の業績を保障するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、異なる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料に掲載されている事項または、本資料を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。また、予告なしに情報の掲載中止や変更を行うことがあります。

